

須佐神社・連歌の会編『平成の連歌』（須佐神社・連歌集1）

本誌第八号に、黒岩淳氏（現福岡県立大里高校教諭）が、「現代に生きる連歌——須佐神社（福岡県行橋市）の奉納連歌——」と題して活動報告をして下さった。そこで紹介された年に一度の奉納連歌の作品が、連歌愛好者で作る「連歌の会」の作品と併せて一書にまとめて出版された。

須佐神社の奉納連歌は、享禄三年（一五三〇）からおよそ四百七十年に渡って管々と詠み続けて来られたものである。現在では、社頭連歌一卷と車上連歌一卷の二座世吉よしか二巻が詠まれる。毎年七月十五日に行橋市今井の福島家において発句定め並びに一順、これを二十一日に須佐神社の拝殿で世吉（四十四句）に完成させるのが社頭連歌である。本書には昭和六十三年以降の社頭連歌を収める。

「連歌の会」は、高辻安親宮司を宗匠として昭和四十年から始まった連歌実作の会で、奉納連歌の行なわれる七月を除いて毎月開催されている。実作の積み重ねから現代の式目を考究し続けているとのこと（凡例より）。本書には平成四年一月から平成九年九月までの月例作品を収めている。

そして、安政四年（一八五七）六月に奉納された社頭連歌を翻刻掲

載し、解説を加えている。さらに巻末には、「今井さん」と「連歌さん」の問答形式で綴る「連歌よもやまばなし」が置かれて、平易で有益な連歌入門になっている（高辻宮司の執筆による由）。
 全体の内容は次の通り。

はじめに

凡例

須佐神社奉納之連歌（昭和六十三年度〜平成九年度）

連歌の会作品（平成四年一月〜平成九年九月）

作者紹介

賦物・発句・脇句・挙句一覽

安政四年今井津祇園会本宮奉納之連歌

解説・安政四年今井津祇園会本宮奉納之連歌

連歌よもやまばなし

本書の中心となるのは「連歌の会」の月例作品であるが、これを読むと、確かに現代にも連歌は生きているのだという思いを強くする。

いづこより老いも若きも来ひけん

筑波の道の栄えゆく道（平成八年十月、黒岩淳氏独吟より）

作品集第一集の刊行を喜び、今後のますますの発展を祈念したい。

連絡先は、千八二四一〇〇一五 福岡県行橋市元永 須佐神社社務所（電話〇九三〇二一一六九三二）。

務所（電話〇九三〇二一一六九三二）。

（B五判。並製カバー装。一八二頁。平成九年十月一日刊。須佐神社社務所発行。頒価二五〇〇円。）（妹尾好信記）